

## ゴー！医見 vol.183 たとえわずかな望みでも

11月26日、いきいき広場で高浜安立荘主催の「第7回市民公開セミナー」が開かれました。今回の演者は大府市の「いきいき在宅クリニック」院長中島一光先生。「家で死にたい」という願いをかなえるべく、日夜在宅医療に尽力している先生です。いきいき広場でいきいき在宅クリニックの先生の講演なんて、出来過ぎのようなマッチングですが、クリニックの名前は「生き」と「逝き」という意味も込めているそうです。見た目は少し怖そうですが（笑）、とっても優しくて包容力のある先生です。実は私よりも半年も若いんです（笑）。

### 本当に死にたい人はいない

先生は在宅での看取りを積極的に行われていますが、そのほとんどが、がん患者さんです。がんの末期になると、あまりの辛さに「もう死にたい」とか「安楽死させてくれ」という人が結構いると言われていています。でも、先生の患者さんにはそういう人はいないそうです。なぜか？痛みを感じないような治療をきちんとしているからです。痛みがなければ辛くないし、「もっと生きていたい！」と思えるのだそうです。

### 麻薬使用量

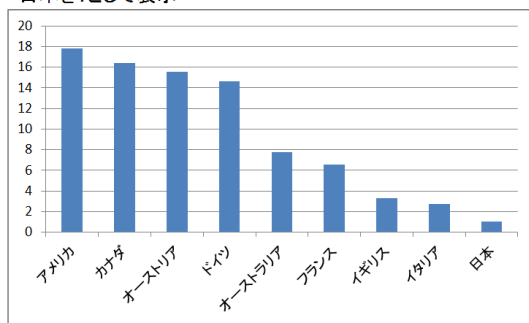
痛みを和らげるのに最も適した薬は麻薬です。麻薬を上手に使えばたとえがんの末期であっても痛みは取り除けるのです。だから有名人が末期がんになったときに使われる「壮絶！」というのはきちんとした緩和治療がされていないか、マスコミ得意のレッテル貼りのどちらかです。

グラフをご覧ください。2006年から2008年までの麻薬の使用量を

#### 医療用麻薬消費量国際比較

モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンの合計(モルヒネ換算)

日本を1として表示



、日本を1とした場合の各国との比較が示されています。日本が一番多いアメリカの18分の1くらいです。10年前よりは多少は改善されていると思いますが、格段に少ないのは確かです。

#### 麻薬に対する誤解

医療用麻薬は正しく使えば中毒になることはありません。また、麻薬は最後の手段で麻薬を使ったらもう長くない、という誤解もあるようですが、決してそんなことはありません。早い段階から麻薬を使った方が苦痛なく生活でき、使わない場合よりも寿命が長くなるのです。実際、私が診ている患者さんは1年以上前から麻薬を使っていて、今でもそれなりに元気に生活されています。

#### たとえわずかな望みでも

死を間近に控えた人を見守るのは本当に辛いと思います。そんな時には松山千春の「燃える涙」を聴いてみてください。

ついてない自分を嘆くのは 心を疲れさせるだけ

あの頃の勇気を取り戻して たとえわずかな望みでも